

第4回 東北大法鬼城句会吟行句会 2017年(平成29年)10月30日学士会館(13. 30～16. 30)

～10月22日～24日開催小浜同期会での吟行～

投句者・作品・句会選句者・蓮園池さん選句・句評

No	俳号	作品	句会選句者(赤字特選)	蓮園池さん選句・句表(特は特選・赤字は並選・やぶにらみ句評)	清記用紙
①	越庵	秋の虹伊吹の国をひと跨ぎ	弁慶 茂睡	特 「…国をひと跨ぎ」素晴らしい表現です。虹の雄大さを感じさせるに十分。	①-1
		荒野分読経しめやか同期会			②-1
		大野分吼える若狭に学生歌	茂睡	並 吼えるが効いています。うまい。	④-5
		眼福や秋の若狭の仏たち	三甫	並 「眼福」少しむづかしい言葉ですが、並み居る若狭の仏にはよく合う。	⑦-1
		千年杉霊力仰ぐ宮の秋	游悦		⑧-3
②	玄舟	寺多き小浜の秋を惜しみけり	游悦	並 一見平凡で類句がありますがそれでも心地よい。	①-3
		千年の杉に長寿を祈る秋		並 千年長寿杉の精霊に祈る情景、ピタリ。	②-4
		拉致ありし若狭の秋は波静か		特 時節柄哀愁一入です。	②-6
		秋深し枯山水に雨頻り	游悦		⑧-1
		秋深む苔生す寺の小糠雨	茂睡 游悦	並 上五中七下五、どの言葉にも無駄がなくよく結びついていませう。	⑨-2
③	幸風	街起こす女たち皆秋日和	越庵	特 若狭の女たちのきびきびした姿が浮かぶようです。	②-3
		秋日和和尚も励む街起こし	三甫		③-3
		野分去り古都の寺々閑なる	玄舟		④-6
		追悼の魂寄り添いて身に入り込む			⑦-3
		身に入みる喜寿の齢や同期会			⑨-3
④	三甫	雨の秋寺で柏手神宮寺			③-1
		秋の旅昔をしのぶ鯖街道			④-3
		寝もやらず風雨激しき秋の宿	玄舟	並 上五中七下五、どの言葉にも無駄がなくよく結びついていませう。	⑦-2
		台風下談笑はずむ同期会	幸風		⑧-5
		秋の寺友追悼の経響く		並 友追悼のしめやかさが伝わります。	⑨-4
⑤	貞風	神の留守仏ばかりの小浜かな			①-5
	(欠席投句)	北陸行巨大台風巨大虹		並 一見三段切れですが、巨大のリフレインがうまい。	③-4

		神の留守悪天候の寺参り			⑦-4
⑥	弁慶	友の説く法話しんみり秋の寺	幸風		①-2
		みほとけの息吹に触れる秋の旅	玄舟 幸風 三甫	「仏の息吹」という言葉に少々異和感を覚えます。	②-2
		秋風や若狭の海を抜けてゆく		「秋風や」で切らなくて、「秋風が」と一句一章の句にしたほうがずっと引き立つように思いますが。	④-1
		晩秋や車で廻る鯖街道			④-2
		戦国の姉妹を偲ぶ秋の旅	幸風 三甫	特 茶々・初・お督の3姉妹がそこに現れているような懐かしさを感じさせます。	⑨-5
⑦	茂睡	水 ^{うま} 美味し秋たけなはの若狭旅	越庵		③-2
		野分過ぎ ^{こうざん} 虹棧地より立ち上る		並 「紅棧」が少々固いが、「地より立上がる」の表現とはよく合う。	③-5
		風 ^{すさ} 荒さぶ御寺の奥の涅槃仏	越庵 弁慶 游悦	特 台風の中の涅槃像、なんと不思議な対象。視線の新しさを感じさせます。	④-4
		若狭にて喜の字の秋を納めけり	越庵 玄舟 三甫	特 「・・・秋を納めけり」が効いている。佳い表現ですね。	⑦-5
		神 ^{かみほとけ} 仏溢るる天地嵐吹く	弁慶	並 「溢るる天地」の表現が妙。	⑧-4
⑧	游悦	冬ざれや生かされし人逝きし人	越庵 玄舟 弁慶	特 人の世のはかなさを表す表現がうまい。	①-4
		身にしむや友に捧ぐる笛の音	茂睡	特 友をしずめる尺八の音が厳かに響きます。	②-5
		木枯 ^{かしわで} に拍手高く神宮寺		並 「木枯」と「拍手」の音と、この季節の風物をよく表していると思う。	③-6
		永らへて集ふ古刹の冬座敷	茂睡	特 死者をしずめる生死の心を深々と伝えます。	⑧-2
		追悼の小浜の寺に寒の雨	幸風 弁慶		⑨-1

①-4 「冬ざれ」は12月の季語 ②-5 「身に入む」は10月の季語 ③-6 「木枯」は11月の季語

⑧-2 「冬」11月の季語 ⑨-1-2 「寒」1月の季語

吟行の場合、囑目詠ですが、異季はどこまで許すかの議論となり、私の属する句会では、当月前後1ヶ月が許されるという説でおさまりました。

そうであるとすれば、①と⑤は違反ということになります。

専門家に聞いてみたいものです。

なお、蓮圀池さんから次のようなコメントがありました。

小浜の旅は友の供養と吟行を兼ねた豊かな旅でした。「初」の寺の住持が同期生とはこれまた奇遇ではありました。吟行は俳句の池、これまでの句会で最も充実した内容になり、私までも感動しました。皆さん、実力がついてきましたね。吟行を重ねたいとの皆さんの感慨のとおり、本当に豊かな吟行となりました。特選の豊作に快哉を叫びました。